



キャンディの輸出

平成31年2月20日

大阪税関調査部

～あめちゃんの輸出

関西から愛を込めて～

調査統計課

2018(平成30)年のキャンディの輸出は

- 全国の輸出数量・金額が過去最高!
- 経済圏別の輸出シェアは近畿圏が第1位!
- 近畿圏の輸出額は過去最高!

過去最高は1988年以降の比較

3月14日は全国飴菓子工業協同組合ホワイトデー委員会が定めたキャンディの日。バレンタインのお返しにキャンディはいかがですか。

関西では重要なコミュニケーションツールの1つとしてホワイトデーに関係なく、「あめちゃんいる?」という一風変わったやり取りを見ることができ、子供から大人まで愛されているお菓子です。

のどの乾燥を感じた時にはとても重宝するだけでなく、気分転換したい時や少しお腹が空いた時はつい欲しくなります。

2018年のキャンディの全国の輸出額は82億円(前年比120.7%)で5年連続で過去最高を更新、数量は6,444トン(同120.7%)で4年連続で過去最高を更新しました。近畿圏の輸出額は35億円(同112.8%)で過去最高、数量は過去3番目となる2,497トン(同114.1%)でしたが、15年前の2003年との比較で約1.7倍となりました。

リーマンショックや東日本大震災の影響はありましたが、その後の輸出は好調に推移しています。今回はそんなキャンディの輸出について特集しました。

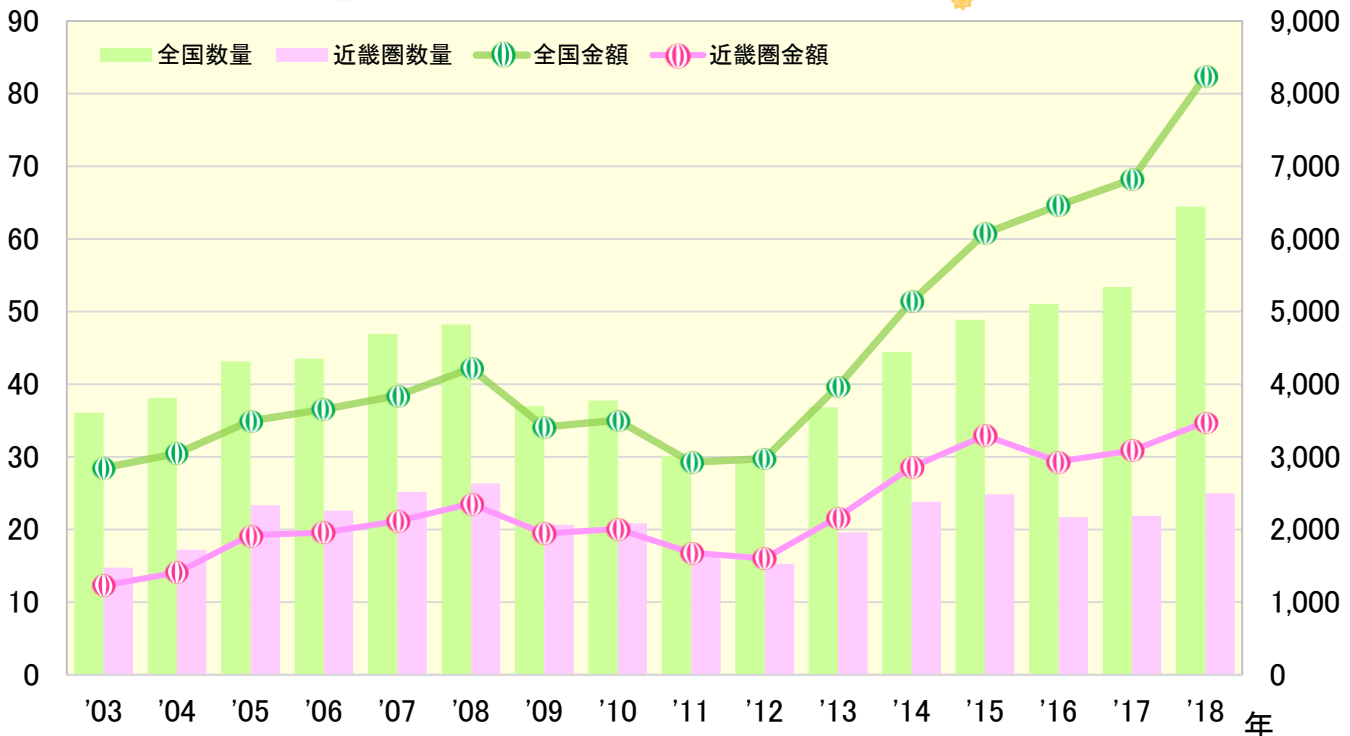
億円



キャンディの輸出推移

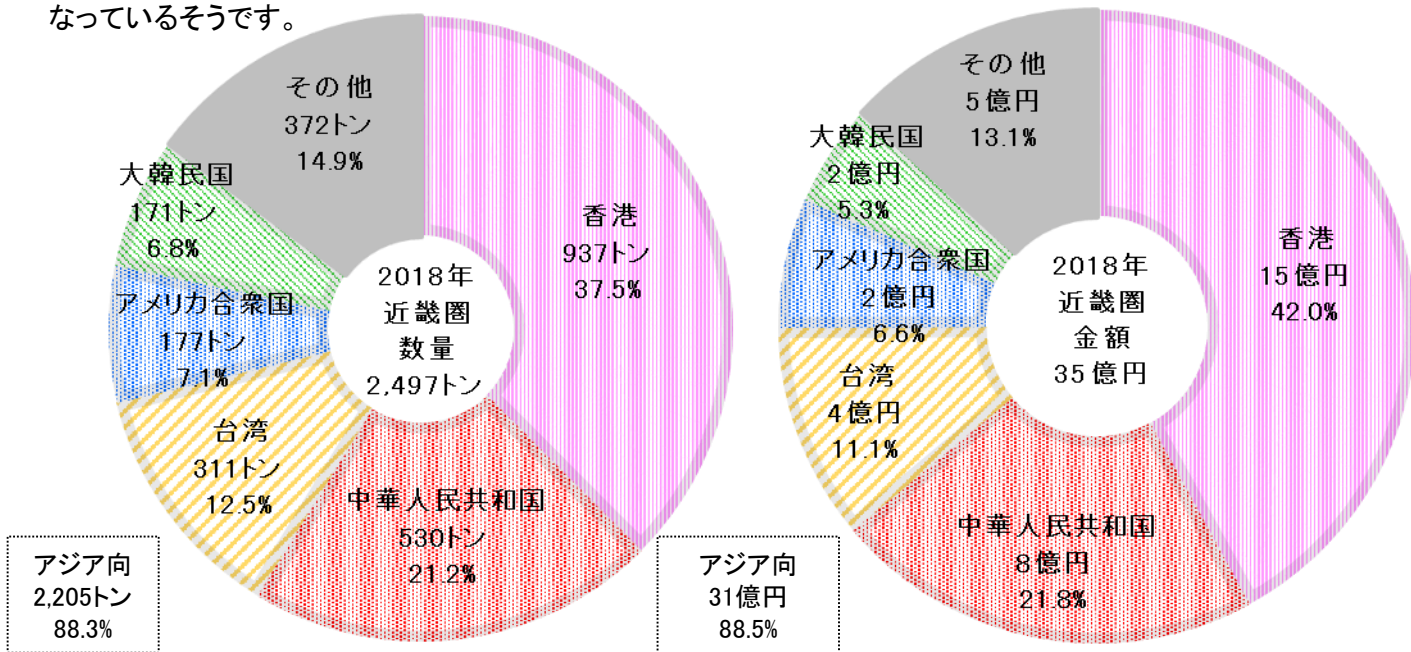


トン

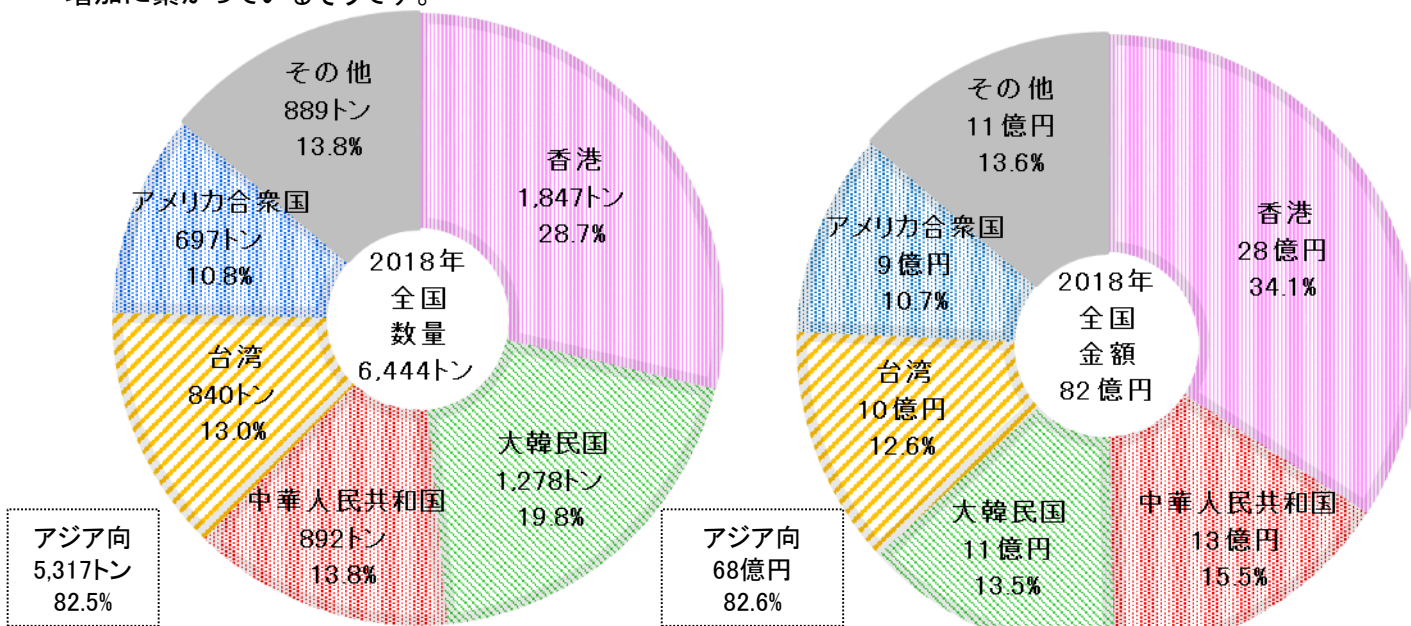


近畿圏・全国の仕向地シェア

近畿圏からは香港及び中国向けに多く輸出されています。香港は様々な国に転送される物流拠点にもなっているようです。



一方、全国の仕向地のシェア(金額)を見ると、1位と2位は近畿圏と同じですが、3位韓国、4位台湾、5位アメリカとなっており、韓国やアメリカ向けの輸出も多いことがわかります。業界によると様々なキャンディメーカーが輸出に力を入れ始めており、物流や販売網が安定して整っている国々から増加しているのではないかとのことです。また、インバウンドの増加もあり日本のキャンディが海外に認知されてきていることも増加に繋がっているようです。



2018年訪日外客数(国籍別)

(万人)

1位	中華人民共和国	838	6位	タイ	113
2位	大韓民国	754	7位	オーストラリア	55
3位	台湾	476	8位	フィリピン	50
4位	香港	221	9位	マレーシア	47
5位	アメリカ合衆国	153	10位	シンガポール	44

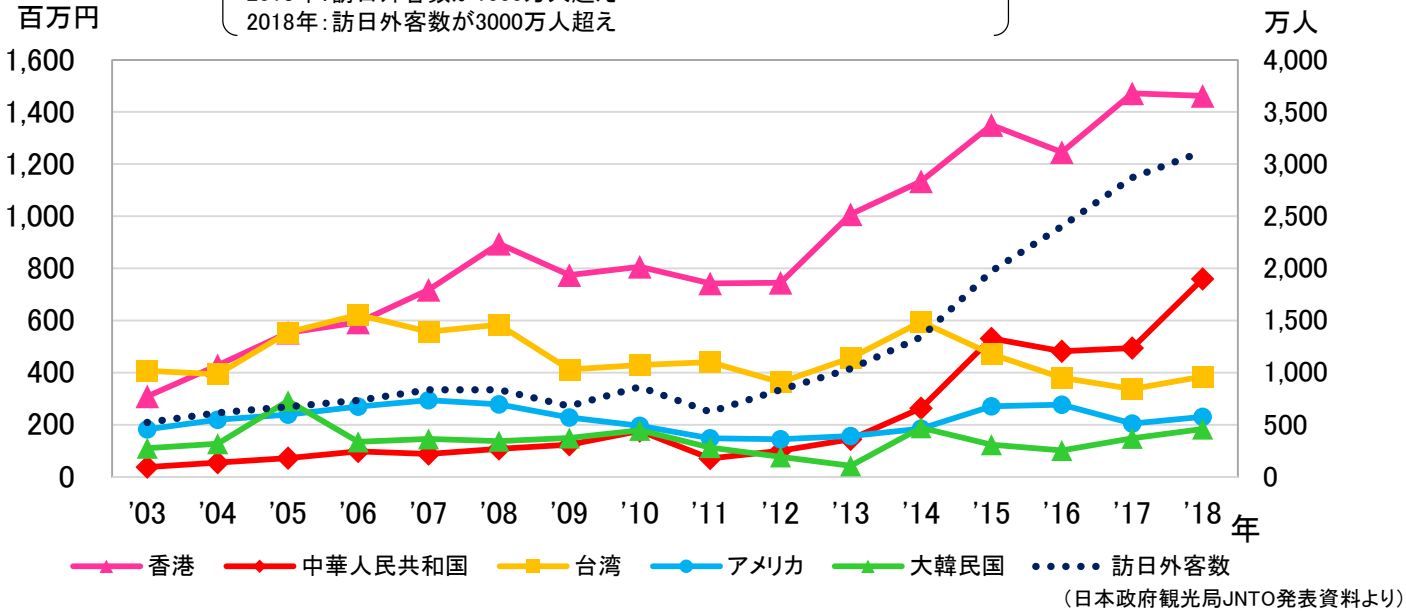
*平成31年1月16日 日本政府観光局(JNTO)発表資料より
(訪日外客数2018年12月および年間推計値)

*訪日外客数は日本を訪れた外国人旅行者の数

主要仕向地別の輸出額推移(近畿圏)

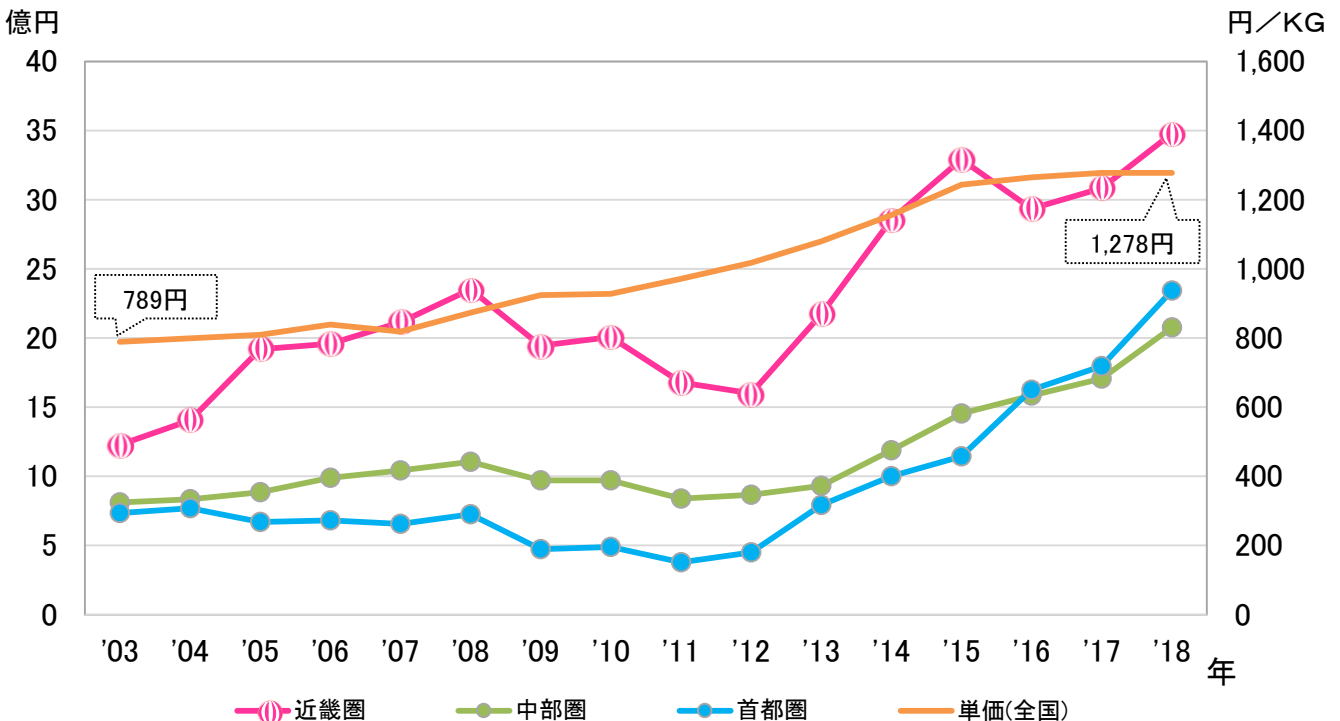
近畿圏で構成比上位の主要な仕向地別の推移を見ると、2003年以降香港向けが大きく伸びています。その後、インバウンド増加の追い風を受け、近年は中国向けも増加をけん引していることがわかります。

2003年: 訪日プロモーション事業「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が開始
 2013年: 訪日外客数が1000万人超え
 2018年: 訪日外客数が3000万人超え



経済圏別の推移

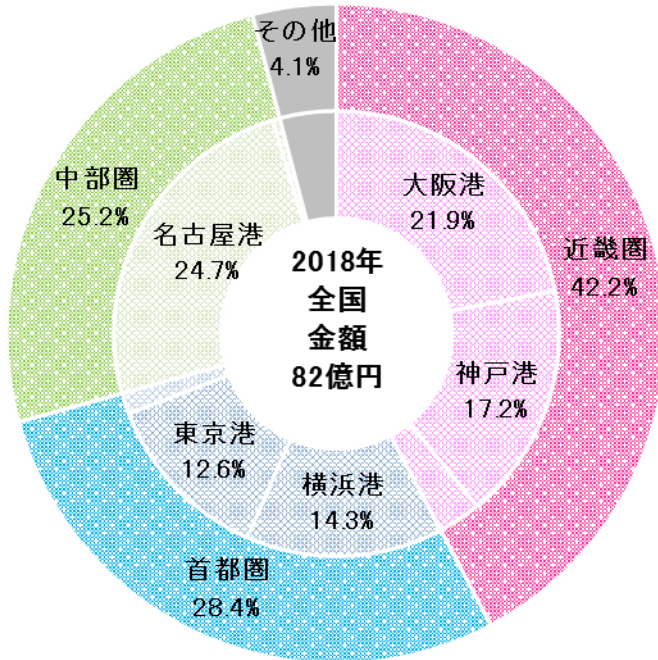
近畿圏のシェアは数量で21年連続、金額で31年連続トップを維持しています(1988年以降の比較)。キャンディの輸出額が伸びているのは、単価の上昇も要因の一つです。業界によると、原材料費の値上がりを実感しているとのことであり、全国の2003年の単価789円/KG 2018年には1,278円/KGまで上昇しています。なお、近畿圏の単価も同じような推移を示しています。



港別シェア

港別のシェアのトップは名古屋港ですが、大阪港が2位、神戸港が3位となっています。近畿圏の港のシェアが大きい理由は、大阪では古くからあめづくりが盛んで、大中小の製菓メーカーの生産工場が近畿圏にあるためであり、生産工場に近い港が積込港として選ばれているようです。

金額 構成比



まとめ

キャンディは砂糖などを主原料として作った菓子の総称で、原料を高温で加熱して硬く仕上げるハードキャンディ(ドロップなど)と、低温で加熱して柔らかく仕上げるソフトキャンディ(グミなど)の2種類に大別されます。今回の特集で取り上げた輸出統計品目表の1704.90-100にも、グミなどのソフトキャンディが含まれています(キャラメルは除かれます)。

国内では本物の果実のような味わいを持つキャンディや乳酸菌入りのキャンディなど、様々なキャンディが販売されており、このような国内に向けた商品と同じものが海外に輸出されています。

業界によると、日本のキャンディは

- 味や種類などバラエティが豊富
- 抹茶味は日本独特で海外生産が難しい
- パッケージのデザインが良く、消費者の目を引きつける

ことから海外でも受け入れられており、旧正月前は大袋やギフト仕様のキャンディの輸出が増加するそうです。また、今後はアジアだけでなく、ヨーロッパやオセアニアなどにも市場拡大を進めていきたいとのこと。

(注1) 本特集におけるキャンディは、統計品目番号1704.90-100(キャンデー類)に分類されるものを集計しています。

(注2) 本特集における経済圏は以下の都府県を含むものです。

近畿圏: 大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

首都圏: 東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県

中部圏: 愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県

(注3) 2018年は輸出確報値、2017年以前は確定値

※本資料を他に転載するときは大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

※本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課まで。(電話06-6966-5385)

大阪税関ホームページ(<http://www.customs.go.jp/osaka/>)

あめ

【データ集】

1. 全国・経済圏別推移(数量:トン、金額:百万円)

年	全国				近畿圏				(首都圏)		(中部圏)	
	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
2003(H15)	3,606	102.0%	2,847	103.1%	1,476	98.4%	1,227	98.2%	735	121.8%	811	95.3%
2004(H16)	3,811	105.7%	3,047	107.0%	1,720	116.5%	1,406	114.5%	769	104.6%	834	102.8%
2005(H17)	4,313	113.2%	3,493	114.6%	2,334	135.7%	1,920	136.6%	671	87.2%	884	106.0%
2006(H18)	4,353	100.9%	3,652	104.6%	2,260	96.8%	1,959	102.0%	682	101.7%	990	111.9%
2007(H19)	4,692	107.8%	3,841	105.2%	2,517	111.4%	2,115	108.0%	656	96.2%	1,042	105.3%
2008(H20)	4,825	102.8%	4,215	109.7%	2,634	104.6%	2,353	111.3%	725	110.5%	1,105	106.0%
2009(H21)	3,693	76.6%	3,413	81.0%	2,065	78.4%	1,944	82.6%	472	65.2%	970	87.7%
2010(H22)	3,774	102.2%	3,502	102.6%	2,081	100.8%	2,007	103.2%	489	103.5%	970	100.0%
2011(H23)	3,010	79.8%	2,926	83.5%	1,625	78.1%	1,679	83.7%	378	77.3%	838	86.4%
2012(H24)	2,923	97.1%	2,975	101.7%	1,526	93.9%	1,600	95.3%	451	119.3%	867	103.5%
2013(H25)	3,680	125.9%	3,973	133.5%	1,959	128.4%	2,173	135.8%	794	176.0%	932	107.5%
2014(H26)	4,443	120.7%	5,136	129.3%	2,384	121.7%	2,857	131.5%	1,001	126.1%	1,187	127.4%
2015(H27)	4,886	110.0%	6,074	118.3%	2,485	104.2%	3,292	115.2%	1,144	114.3%	1,454	122.4%
2016(H28)	5,104	104.5%	6,457	106.3%	2,170	87.3%	2,935	89.1%	1,626	142.1%	1,585	109.0%
2017(H29)	5,340	104.6%	6,822	105.7%	2,189	100.9%	3,084	105.1%	1,797	110.6%	1,708	107.7%
2018(H30)	6,444	120.7%	8,236	120.7%	2,497	114.1%	3,479	112.8%	2,342	130.3%	2,076	121.6%

2. 訪日外客数の推移(万人)

年	訪日外客数
2003(H15)	521
2004(H16)	614
2005(H17)	673
2006(H18)	733
2007(H19)	835
2008(H20)	835
2009(H21)	679
2010(H22)	861
2011(H23)	622
2012(H24)	836
2013(H25)	1,036
2014(H26)	1,341
2015(H27)	1,974
2016(H28)	2,404
2017(H29)	2,869
2018(H30)	3,119

* 日本政府観光局(JNTO)資料より
(2018年は推計値)

3. 近畿圏数量推移(トン)

年	近畿圏 数量	香港		中華人民共和国		台湾		アメリカ		大韓民国	
		数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比
2003(H15)	1,476	409	27.7%	58	3.9%	435	29.4%	191	12.9%	162	11.0%
2004(H16)	1,720	542	31.5%	84	4.9%	408	23.7%	278	16.1%	195	11.3%
2005(H17)	2,334	666	28.5%	118	5.0%	548	23.5%	272	11.6%	495	21.2%
2006(H18)	2,260	681	30.2%	178	7.9%	603	26.7%	302	13.4%	207	9.2%
2007(H19)	2,517	769	30.6%	151	6.0%	609	24.2%	362	14.4%	245	9.7%
2008(H20)	2,634	890	33.8%	211	8.0%	681	25.8%	284	10.8%	181	6.9%
2009(H21)	2,065	697	33.7%	204	9.9%	482	23.3%	227	11.0%	183	8.9%
2010(H22)	2,081	709	34.0%	264	12.7%	511	24.6%	183	8.8%	204	9.8%
2011(H23)	1,625	634	39.0%	101	6.2%	484	29.8%	131	8.1%	115	7.1%
2012(H24)	1,526	624	40.9%	137	9.0%	347	22.7%	123	8.0%	73	4.8%
2013(H25)	1,959	775	39.6%	171	8.7%	432	22.1%	149	7.6%	38	1.9%
2014(H26)	2,384	841	35.3%	239	10.0%	525	22.0%	152	6.4%	143	6.0%
2015(H27)	2,485	915	36.8%	413	16.6%	422	17.0%	190	7.6%	100	4.0%
2016(H28)	2,170	806	37.2%	329	15.2%	323	14.9%	198	9.1%	92	4.2%
2017(H29)	2,189	916	41.8%	363	16.6%	266	12.1%	155	7.1%	138	6.3%
2018(H30)	2,497	937	37.5%	530	21.2%	311	12.5%	177	7.1%	171	6.8%

4. 近畿圏金額推移(百万円)

年	近畿圏 金額	香港		中華人民共和国		台湾		アメリカ		大韓民国	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
2003(H15)	1,227	308	25.1%	37	3.0%	408	33.2%	182	14.8%	110	9.0%
2004(H16)	1,406	428	30.4%	55	3.9%	394	28.0%	219	15.6%	127	9.0%
2005(H17)	1,920	554	28.8%	72	3.8%	555	28.9%	239	12.5%	292	15.2%
2006(H18)	1,959	592	30.2%	97	5.0%	622	31.7%	270	13.8%	135	6.9%
2007(H19)	2,115	718	33.9%	87	4.1%	556	26.3%	295	13.9%	146	6.9%
2008(H20)	2,353	895	38.0%	107	4.6%	583	24.8%	279	11.8%	137	5.8%
2009(H21)	1,944	774	39.8%	123	6.3%	412	21.2%	227	11.7%	149	7.7%
2010(H22)	2,007	806	40.2%	177	8.8%	430	21.4%	196	9.8%	178	8.9%
2011(H23)	1,679	742	44.2%	70	4.2%	441	26.3%	148	8.8%	113	6.7%
2012(H24)	1,600	744	46.5%	101	6.3%	363	22.7%	144	9.0%	76	4.8%
2013(H25)	2,173	1,007	46.4%	144	6.6%	457	21.0%	157	7.2%	43	2.0%
2014(H26)	2,857	1,134	39.7%	263	9.2%	594	20.8%	185	6.5%	188	6.6%
2015(H27)	3,292	1,350	41.0%	532	16.1%	471	14.3%	271	8.2%	123	3.7%
2016(H28)	2,935	1,246	42.4%	482	16.4%	380	13.0%	277	9.4%	102	3.5%
2017(H29)	3,084	1,472	47.7%	495	16.0%	337	10.9%	205	6.6%	148	4.8%
2018(H30)	3,479	1,462	42.0%	760	21.8%	385	11.1%	231	6.6%	184	5.3%

5. 経済圏別・港別金額シェア(百万円)【2018(H30)年】

経済圏又は港	金額	構成比
近畿圏	3,479	42.2%
大阪港	1,805	21.9%
神戸港	1,417	17.2%
その他の港	257	3.1%
首都圏	2,342	28.4%
横浜港	1,180	14.3%
東京港	1,036	12.6%
その他の港	126	1.5%
中部圏	2,076	25.2%
名古屋港	2,034	24.7%
その他の港	42	0.5%
その他の経済圏	338	4.1%

6. 輸出単価の推移(円/KG)

年	輸出単価 (全国)
2003(H15)	789
2004(H16)	800
2005(H17)	810
2006(H18)	839
2007(H19)	819
2008(H20)	874
2009(H21)	924
2010(H22)	928
2011(H23)	972
2012(H24)	1,018
2013(H25)	1,080
2014(H26)	1,156
2015(H27)	1,243
2016(H28)	1,265
2017(H29)	1,278
2018(H30)	1,278

